

企画展

田淵行男記念館 企画展 「山をうたう」詩×写真×田淵行男展



写真：田淵行男撮影 「午後の山 三ツ岳」 1966

「山・里・花・蝶」をキーワードに、田淵行男の詩の世界に着目して、山岳写真・生態写真とともに構成します。

- 会期 3月4日(日)まで
- 会場 田淵行男記念館
- 観覧料 個人：大人300円・小人200円、団体：大人200円・小人100円
- 展示説明会 毎月第3日曜日 午後1時30分から
- 休館日 月曜日(祝日の場合は開館)、祝日の翌日、年末年始(12月28日～1月4日)
- 問い合わせ 田淵行男記念館 (TEL 72・9964)

生きていることが
不思議に思われる
生きていることが
悲しく思われる
生きていることが
うれしく思われる

(山頂の朝)

田淵が生涯をささげて作り上げた作品集は、どれもこだわりが満ちています。これらの作品集を語る上で特筆すべきことは、その心情を雄大な自然や小さな動植物に託し吐露していることといえます。ある時は、八ヶ岳や浅間山の豊かな山ろくの楽しみを和やかに歌い上げ、またある時は、開発の進む安曇野の自然に向かい哀惜を持って静かに祈る。これらの詩は彼の写真作品から切り離せぬ要素であり、作品を理解する上でも重要な手掛かりとなります。この詩性に魅せられる人も多く、作家独自の世界を際立たせています。この展覧会で、田淵の視点から見つめた自然界の魅力をぜひご覧ください。

展覧会

豊科近代美術館 収蔵品展を開催

豊科近代美術館では、常設展示されていない宮芳平、奥村光正の作品などを公開する「収蔵品展」を開催します。特に奥村光正作品の展示は、平成17年の「あなたの町の奥村光正展」以来で、安曇野市誕生後初となります。ぜひご覧ください。

- 会期 1月5日(金)～3月11日(日)
- 会場 豊科近代美術館 2階 企画展示室
- 入館料 一般500円・高校生300円・中小生150円(常設展・バラの花写真展を含む)
- 問い合わせ 安曇野市豊科近代美術館 (TEL 73・5638)



美術館では「第4回バラの花写真展」開催中!

講座

豊科郷土博物館 白鳥写真教室(初心者向け)

安曇野の冬を代表する風物詩となったコハクチョウの越冬も、23シーズン目を迎えました。そこで豊科郷土博物館では、初飛来のシーズンから毎年開催している「白鳥写真展」への出品を前提として、初心者向けの写真教室を開催します。今回は、穂高柏原出身でハクチョウを20年間見つめ続けている中島泰樹さんを講師に、野鳥の生態観察会とハクチョウの写真教室を行います。

- この機会に、カメラを片手に野鳥観察に出掛けてみませんか。
- 期日 2月3日(土)
- 会場 豊科田沢白鳥湖周辺・明科御宝田・穂高狐島(復旧工事の進展とハクチョウ飛来地により変更あり)
- 日程 豊科郷土博物館(集合：午前6時30分)～市内ハクチョウ飛来地～田淵行男記念館(見学)～豊科郷土博物館(講評・解説の後、正午に解散)

- 講師 中島 泰樹さん(日本自然科学写真協会会員・日本野鳥の会会員)
- 対象 一般(初心者向け・当館での白鳥写真展への出品を前提とする)
- 参加費 1,500円(バス代・講座料・入館料・保険代)
- 持ち物 飲み物・雨具・カメラ(機種不問)・筆記用具・防寒具など
- 申し込み 1月10日(水)から21日(日)までに、郷土博物館窓口にて参加費を添えてお申し込みください。
- 問い合わせ 豊科郷土博物館 (TEL 72・5672)

展覧会

豊科郷土博物館友の会 第32回 押絵展

豊科郷土博物館では、友の会押絵部による「第32回押絵展」を開催します。

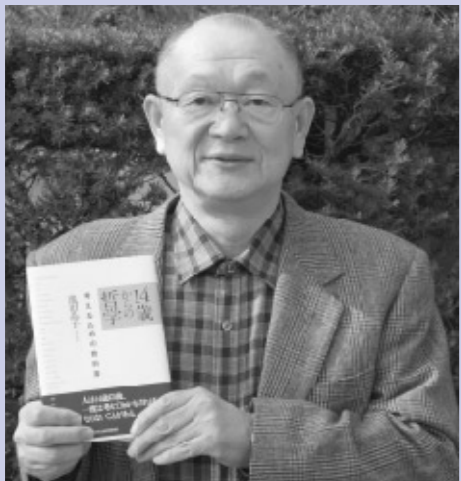
押絵は布細工の一種で、布の芸術ともいわれます。花鳥や人物など、ほんの小さな布切れが織り成す世界は、創ることの素晴らしさを教えてくれます。

今回は、「子ども」をテーマとして、子どもの遊びやしぐさかわいらしい押絵で表現します。また、平成19年の干支であるイノシシをテーマとした作品や、正月らしい羽子板の作品、およそ60点を展示します。

- 会期 1月7日(日)～21日(日)
- 会場 豊科郷土博物館展示室
- 入館料 大人100(80)円・小中学生50(40)円(カッコン内は20人以上の団体料金)
- 休館日 1月9日(火)・15日(月)
- 問い合わせ 豊科郷土博物館 (TEL 72・5672)

おすすめの一冊

14歳からの哲学 池田晶子 著



紹介する人

おかにわ けんじ 岡庭 賢二さん(明科七貴)

日常当たり前だと思っていることについて深く考えたことがありますか。題名から連想する哲学は、ややもすると難解なことをイメージしやすいところが、私たちが当たり前だと思っていることが本当はどのような具体例を挙げて掘り下げ、平易な表現で説明しています。人生では、自分で考えて知ることこそ、最も大切だと思います。この本は、そのきっかけを与えてくれます。何かをもっと知りたいという強い気持ちになれる本です。